

# I.I.MECA VOL.1

アイ・アイ・メカ



メンタルケア協会  
平成8年2月20日発行  
発行責任者 市橋 保雄  
東京都渋谷区神宮前1-6-1  
原宿パレフランス549  
TEL 03-3405-7270  
FAX 03-3405-8580

## ご挨拶

メンタルケア協会 会長 市橋保雄

平成5年9月の協会発足から2年余が経過し、その活動もマスコミ誌上をはじめとして、漸次社会よりの評価をいただきました。これはメンタルケアのスペシャリスト養成講座にご参加をいただき、協会の業務にご賛同を下さいました精神対話士の皆様をはじめとした関係各位の暖かいご支援の賜物であると、感謝を申し上げる次第であります。

現在協会は110名の方々に精神対話士としての契約をいただき、クライアントの方々からの派遣依頼にお応えしているところであります。顧みましてこの短期間に、世界で類を見ない試みであった“対話による心のケア”の仕事が、かくも成長を遂げましたことは、正に精神対話士の皆様の日頃のご努力とご研鑽を礎としているものと、敬意を表するところであります。

一方、世間の評価とは別に今一歩派遣のお申し込みが伸び悩む傾向にあり、これに対し私共協会運営をお預かりする立場といたしましては、需要拡大策に心魂を傾けているところでもあります。

協会といたしましても、今後更に業務の普及に力を注いでまいる所存でありますので、なお一層のご支援、ご理解をいただきますよう宜しくお願ひ申し上げます。

さてこの度、かねてより計画をいたしておりました協会と関係者の皆様方を結ぶ機関誌の第1号を刊行する運びとなりました。この種の情報交換につきましては、精神対話士の方々をはじめとして各方面からご要望をいたしております。漸く実現に至りましたことはご同慶の至りに存じます。

この機関誌の果たす役割が、単なるニュースの分野であるとか、協会からの一方的なお知らせに留まることのない旨を期して『I.I.MECA』(Idea & Information of Mental Care Association)と名付けました。名称の示す通り、この機関誌が心のケアに関する斬新なアイデアと、協会と皆様の双方からの有益な情報により、実益を備えた充実したものとなることを期待して創刊のご挨拶といたします。

## 協会活動の現状について

事務局長 久保田 好之

### 1. メンタルケアのスペシャリスト養成講座について

平成7年度は、協会設立以来の東京地区開講に大阪会場を加え、2ヶ所で実施致しました。東京地区、大阪地区各々2回の開講で992名の方々が実践課程まで受講されました。基礎課程の講義内容は、基本的には第一回以来同様のもので、これを(1)医学から見た人間探求、(2)宗教から見た人間探求、(3)メンタルケアに関する対処論、(4)特別講演の4つに体系化を図り、ほぼ全員の方が無事受講を終えられました。また実践課程についても同様に、講義とロールプレイを織り混ぜて実施し、好評のうちに終了しました。

### 2. 精神対話士の現状について

発足以来現在まで110名の精神対話士が誕生して活躍しておられます。合格率の平均が約二割程度という厳しい試験をくぐり抜け合格された精神対話士の方々には心からお慶び申し上げ、今後の活躍を大いに期待したいと思います。又今回6回生の内より、関東・関西の方々の合格者に加え、九州地区在住の2名の精神対話士が誕生しました。

### 3. クライアント開拓について

協会は目下全力をあげてこの問題を取り組んでおります。現状では首都圏にご依頼者が集中する傾向にあるため、首都圏以外の精神対話士のおられる地区の各種老人ホーム、県、市町村の関係部署等を継続訪問し開拓に努力しております。今後の開拓状況などは隨時「協会ニュース」でお知らせしていきたいと思います。

### 4. 阪神大震災被災地区への精神対話士派遣について

別項をご参照下さい。



### 特別寄稿 「一つのアイディア クライアント依頼者とわたし精神対話士」

名誉会長 長木 大三

クライアントとわたしが居る快適な室も、密室だとしたら、ある時間後には酸欠のために息苦しくなり、やがては二人とも生命を失うことでしょう。二人は、そうなる前に窓や扉を空けて外気（酸素）を入れて生命を救おうとします。「生命」をシンボリックに考えると、二人は「生命」を共有していると申せましょう。

新鮮な空気の酸素を与えて人の生命を護ってくれるのは植物です。人間（動物）が呼気の中に吐いた炭酸ガスを植物は自分の体成分（炭素）として受け取り、代わりに酸素を提供してくれます。この室で二人はお互い吐いた呼気を吸っている訳で、これは煙草の煙が遠くまで漂ってくることでよく解りましょう。精神対話士であるわたしは、クライアントと同じ室にいることで“シンボリックな生命”を共有させていただいたと考えるのであります。

地球をとり巻く空気は万民共有のものです。その空気を介して全人類は、地上や海水中の植物と“シンボリックな生命”を共有しているのです。かくのごとくに生命の維持に植物が如何に大切であるかを考えたとき文明文化の伝達手段である紙を造るために、森林の樹木を伐採することを避け、例えば無用になったバナナの幹や砂糖黍のしづら津などから製紙ができれば、正しく人類の福祉と云わねばなりません。この研究をライフワークにされた畏友御田昭雄博士を中心に、熱帯情報学会が設立され、小生は副会長として微力をつくしております。

精神対話士は、人が人に賜る賜物の中で最も尊い誠心を以って人に接し且つ対座しているクライアントと“シンボリックな生命”を共有しているという真に有意義な仕事に携わっていることをいつも心にとめて頂きたいものです。

### 協会ニュース

#### ■被災地神戸への派遣活動について

阪神大震災から月日が経つにしたがって、人々の記憶の中に被災地への関心が薄れている中、むしろメンタルケアはこれからが重要になってくると思われます。震災により「生きがい」を失いかけた高齢者を始めとする被災者の方々を励まし、対話によって少しでも「生きることの尊さ」を共感できればと考え、協会の特別企画として神戸への派遣活動を平成7年12月より実施しております。期間は毎月1回月末の土曜日を5月まで続ける予定です。この企画にご賛同いただき参加を希望される精神対話士の方は、詳細について協会事務局あてお問い合わせ下さい。

#### ■有料老人ホーム（ウエルピア市川）への精神対話士派遣制度導入決定について

有料老人ホームへの「精神対話士派遣制度」導入の第1号が全国に先がけ千葉県の有料老人ホーム「ウエルピア市川」に決まりました。この活動を通じ「老人ホーム」への“心のサービス”的提供が今後一層広まるよう、協会はクライアント開拓に力を注いでまいります。

#### ■英文名称について

メンタルケア協会 M C A (Mental Care Association)  
精神対話士 M C E (Mental Care Expert)

### 編集後記：

事務所の窓から入り込む陽射しの中に時折、春の気配を感じる今日この頃です。本号の発行が諸々の理由により遅れおりましたが、ようやく刊行できることとなり、関係者一同ほっとしております。今後、本誌は季刊誌（年4回）として発行する予定です。なお精神対話士の方々より編集委員を募集します。有志の方は奮って事務局までお申し出下さい。是非編集にお力添えをお願いします。

